



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和5年1月号 第215号

(令和5年1月31日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

◇令和5年、年初にあたり 公益社団法人 東京のあすを創る協会 会長 中井敬三



新しい年を迎え、皆様、如何お過ごしでしょうか。

残念ながら、コロナ禍は未だ終息する状況には至っておりません。私も昨年暮れに、遂にコロナに罹ってしまい、完全な寝正月の三が日を過ごしました。幸い、ワクチン接種5回の効果なのか、症状は比較的軽くて済みました。それでも娘や孫たちに比べると回復には倍以上の時間を要しました。おまけに後遺症ということかもしれませんが、咳だけは未だになくならない状況が続いています。「オミクロンは軽い。」と一般には言われていますが、それも人によりけりだと思います。罹らないことに越したことはありません。皆様には、今後も感染予防に十分留意されることをお薦めいたします。

さて、私は今の仕事柄(JKK東京一東京都住宅供給公社一に勤務しております。)、東京のコミュニティの状況に強い関心を持っております。前にもお話をさせていただきましたが、東京のコミュニティは、高齢化の進展や匿名性志向の風潮の中で、昭和、平成、令和という時代を通じて次第に希薄化してきたように思います。そして、今回のコロナ禍でこの傾向がさらに一段と進んだことは間違いありません。コロナ禍が終息した後に、今の状況が回復に向かうことは当然あると思いますが、果たしてコロナ禍以前の状態まで戻れるのか、大いに心配なところです。

コミュニティはそこに住む人々に楽しさや安らぎ、安心といったものを与えてくれる正に「生活基盤の潤滑油」と言えるものです。とりわけ、高齢者や子供、新米のママ・パパといった人たちにとっては、なくてはならない日常生活サポート機能となりうるものだと思います。この大切なコミュニティが今危機的な状況と言わざる得ないところまで追い込まれています。しかし、世の中はこのことに左程注意を向けているようには思えません。旅行支援については、マスコミも行政も積極的に話題にしています。確かに行楽・飲食需要を喚起することは、経済を回復させていく上で大事なことです。でも、個々人の日常においては、コミュニティの回復もこれと同じくらい大事なことはないのでしょうか。政治・行政の関係者の皆さんには是非この点にも熱い視線を注いで頂きたいものです。

またそれと同時に、今回のコロナ禍によるコミュニティの希薄化が、逆に多くの人々にコミュニティの必要性や大切さを実感してもらえるよい機会となり、地域から自然発生的にコミュニティ回復の動きが雨後の竹の子のように出て来てくれることを期待するものです。そして、われわれ東創協としても、そうした地域の動きの先頭に立つ気持ちでそれぞれの活動をリスタートする1年になればと思います。

今年も、皆様の活動が円滑にそしてより発展されることをご期待申し上げますとともに、事務局としてもできる限りのご支援をさせていただくことを申し添え、新年のご挨拶とさせていただきます。今年も共に頑張っていきましょう！

地域活動ルポ

現在、新型コロナ第8波が押し寄せているところですが、昨年第7波が過ぎた頃より、地域での活動がようやく活発になってきたようです。ここでは、昨年の11月から12月にかけて幾つかの活動を拝見させていただきましたので、ご紹介します。

◇みんなで実演！ヒッポおはなしフェスティバル 令和4年11月27日(日) 大田区・Luz大森



<読み聞かせネットワークヒッポ>が、年一回開催している「みんなで実演！ヒッポおはなしフェスティバル」が大田区のLuz大森で開催されました。当日のプログラムは、①みんなで実演！『スキルアップ連続講座おはなし会で使える工作Part1・2』ご参加の皆さん、②絵本の読み聞かせ・絵本の紹介(種村由美子さん)、③パネルシアター(読み聞かせグループ本の花束)、④素話(高橋公美さん)、⑤カバさんの紙芝居(千葉晶さん)と盛りだくさん。会場には、子供たちが靴を脱いで座れるマットも敷かれてあるなど親子でく

つろいだ雰囲気なるように工夫されていました。まず、昨年開催された「読み聞かせボランティア スキルアップ連続講座」で受講生が作った指人形などを使った実演で盛り上がり、多様な絵本の紹介で興味の世界を広げてくれ、フェルトで作られた人物などをパネルに自在に登場させお話しの世界に引き込むパネルシアター、更には絵本を使わずお話だけで想像の世界に誘ってくれる素話、最後はテンポあふれる伝統的な読み聞かせの紙芝居で終了でした。

◇朴の会 講演会、ごえんなミニこんさと 令和4年12月3日(土) 青山パナソクウェア



小児がんの子供たちやその家族への応援団<朴の会>が、松本公一先生(国立成育医療研究センター小児がんセンター長)の小児がん治療の現状の講演、若手声楽家によるミニコンサートを開催しました。講演では、免疫療法や分子標的薬などの新しい治療により小児がんも治る時代に入ったが、一方では治った後も「晩期合併症」により苦しむ人が少なからずいるという話がありました。「ミニこんさと」では、ピアノとチェロによる絶妙な伴奏に乗り、モーツァルトからサイモン&ガーファンクルまで、見事な歌声を聴かせていただきました。音楽には、心を和ませ、生きる喜びを高めてくれる力があります。早く、子供たちに生演奏が届けられたらと思いました。

◇立川お手玉の会 SDGs 学習会 令和4年12月8日(木) 立川市幸学習館



立川市には「いきいきたちかわ出前講座」という市民の自主的な学習会などに市職員を派遣する制度があります。<立川お手玉の会>はその制度を使い、身近な環境問題について2日連続で学習会を開催しました。そのうち「ごみをつくらないライフスタイルに転換しよう! ~身近な暮らしの2R(発生抑制・再利用)」と題した学習会を見学しました。立川市は驚くほど徹底した分別収集を実施

していますが、その分別方法について熱心な質問が出るなど、市民の環境問題に対する意識の高さに支えられて実施できているのだなと感じられました。会場には、お手玉の脱プラ化やみつろうラップ(写真右)も展示されていました。

◇たねまきびと清瀬 会員例会 令和4年12月10日(土) 清瀬市アミューホール



<たねまきびと清瀬>は、平成29年の設立以来、清瀬に笑顔のたねをまき、音楽・教育・文化活動でまちを元気に!を合言葉に活動してきました。今回は第7回会員の集いとして「ジャズ・ゴスペル・クリスマス・コンサート」を開催することで、参加させていただきました。出演はジャズピアニストの入江新一郎さん、ボーカリストの入江真奈さん。クリスマス・ソングを中心にコロナ禍の中、なかなか聴くことができなかつた生の澁刺とした音楽を奏でられると、来場者一同一瞬にして夢見心地でウツリ。音楽の力はやはり素晴らしい。これまで、コロナ禍の中で制限されてきましたが、今後はこういった生の演奏に自由に接したり、様々な活動が活発にできるようになることを願うばかりです。

◇北区しめ縄生活学校 令和4年12月20日(火) 北区立王子小学校



一般社団法人国際教養振興協会が実施している「しめ縄プロジェクト」の活動の一つとして、総合的な学習の一環として実施されたもので、当日は王子小学校5年生109人が参加した。最初に、正月の意味や正月飾りの役割などの分かりやすい説明を受け、北区しめ縄生活学校のメンバー、保護者ボランティアのサポートにより、実際にしめ縄づくりを体験するというスケジュール。縄を編(な)う作業は、右手や左手でねじったり、上に重ねたりと苦戦しながらも、手助けを受けてコツを掴み次第に上手に編めるようになるのは、さすがのみ込みの早い子供たちならではの。この体験学習は、王子小学校では4回目で、北区内では他に3校で実施しています。

▽ひとこと 今、食品を始めとしてあらゆる物の値段が上がっています。昔、狂乱物価と称されたこともありましたが、今般の値上げラッシュもそれに勝るとも劣らない勢いです。そして、最近の値上げに特徴的なことは、「ステルス値上げ」というものが散見されること。値段はそのままに内容を少なくするという、ステルス(隠密)値上げです。何となく小ぶりになったなと感じたり、1000ml入りだったものが900ml になっていたり、一袋100g入りだったものが小刻みに少なくなり、遂には50gに半減した例も。海外では、チョコレートの量を減らして販売するも、多くの批判を浴びて元の量に戻して値上げしたという例もあるという。日本では、量が少ない方が食べ過ぎ予防になると悟っているのか、批判めいた声は聞こえない。これでは、なんでも小さくなってしまふ。そして、ステルスであろうがなかろうが値上げに変わりなく、収入が遅々として増えなければ、結局のところ「ステルス減収」に繋がっていくのです…。そんな厳しい新年のスタートですが、コロナ禍に悩まされることのない日常が戻ることを期待しつつ、また一年よろしくお祈りします。(竜)